日野市立病院 プロフィール

診療科（16科）　内科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、精神神経科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科

平成17年１月㈶日本医療機能評価機構から認定病院として認定

病床数　300床

医師及び看護職員数
※数字は2月1日現在の実働数
医師40人（計画定数は52人）
看護職員166人（計画定数は193人）

所在地　多摩平４―３―１

それには、市立病院に直接外来にいらっしゃる患者様にはご迷惑をおかけすることになると思いますが、ご理解いただきたいと思っています。

牛尾　私ども医師会も少なくとも市立病院の紹介率は30パーセント以上になるべきだと思っています。

市内の医療機関からの紹介患者様を市立病院で検査し、その結果を知らせてもらうシステムをもっと活用する必要があります。特にCTやMRIなどの検査は市内の開業医にそのシステムを活用してもらえば、紹介率ももっと上がると考えます。

市長　市立病院は町立病院からの古い伝統があり、来院された患者様すべてを診なくてはいけないという考えが病院側にも、市民の皆様にもあるように思います。そのあたりの考え方を変えていただかなくてはと思います。

牛尾　医療制度が変わり、外来患者様の診療に力を向けていると病院の収益がどんどん下がっていってしまう現状がある…。そのシステムをまだ、市民の皆様に理解していただけていない現実があります。

市立病院のような病院は、入院患者様を中心に診療を行わないと病院の経営がうまくいかない現状があります。どんどん赤字が累積していくと市立病院がつぶれてしまいます。これを防がなくてはいけないと思います。

救急施設としての市立病院、これも大きな役割

市長　私が市長に就任した平成９年、市立病院を建て替えなければいけないという議論と、病院建設は難しいという議論があり決断には大変苦慮しました。

そのとき、なぜ日野市が市立病院を持つのかという一番のポイントは、「大災害の際に日野市民を守る拠点として市立病院が必要だ」ということでした。原点はそこにあるということを皆様に分かっていただきたいと思っています。これは経営を超えた重要な視点だと思っています。

熊井　救急施設としての市立病院、これも大きな役割だと思っています。赴任して、医療安全対策面を充実させるため医療安全管理室を設けました。現在、感染症対策、リスクマネジメント対策を整えている段階です。また災害医療対策訓練も院内で行っており、万一の災害に備えています。

感染症の対策ですが、新型インフルエンザが近い将来問題となる危険性があります。多摩地域の病院、警察、保健所、消防署などと連携した対策がすでに始まっているところです。これは病院の採算とは切り離したところで早急に態勢を整えなくてはと考えています。

牛尾　今問題にされているのがH５N１というインフルエンザですが、海外で発生したものが、飛行機で移動する時代ですから、またたく間に日本に入り、免疫がないため爆発的に流行してしまうかもしれない危険をはらんでいます。流行してしまうと抑えることは難しいとされています。その対策は急務です。

市長　市の健診などをはじめとする健康行政についても、医師会にはすでに大変なご協力をいただき感謝しています。今後も支援していただきたいと思います。

市立病院は、公開講座などで病気予防のPRを行っていますが、ぜひ、病院以外の場所でも積極的に活動してもらいたいところです。

病院の経営健全化のためにまず医師の確保を

熊井　病院の経営健全化に最も効果的なことは医師・看護師の補充です。医療スタッフが充足しますと機能的かつ高度な診療が可能になります。その結果、医療の単価が上がり、それが経営改善に直結していくわけです。

今後、どのような方法で人員を確保していくかですが、私は、市立病院に赴任する前30年間、慶應義塾大学病院におりました。そのルートから医師確保の方策を探っています。

看護師は、今年おそらく退職者と採用者では採用者の方が多くなると思います。

人員不足の解消が院長としての最大の仕事と思っています。

市長　私が市長に就任した頃、市立病院の人事は大学病院の医局に一任でした。

最近は、こちらから大学病院にお願いや申し入れをすることが多くなりました。もう少し早くそのような対応をしていれば良かったかと思いますが、今回、熊井院長の新しい体制となって、市職員全体が病院を良くしていこうという機運が高まってきました。まだまだ厳しい面がありますが、良い方向に向かっていくと思います。

冒頭にも言いましたが、総務省から自治体病院に対する指導が厳しくなり、明確な数値目標を持ちなさいと指示が来ています。国や都はその数値に向け、頑張っている病院は応援しますが、そうでない病院は違う方法を考えなさいということです。

市も、市立病院の存在意義を考え存続に向け努力をしなくてはいけないと思っています。

具体的な数値目標を挙げれば、病床利用率を単年度黒字が見込まれる80パーセント以上にしたいと思っています。

また、人件費問題解消のため、医師の給与体系を見直しました。一生懸命に働いていただく先生にはそれなりに給料に反映する形にしました。夜間や救急などの手当を厚くするなどです。しかし、全体の人件費は抑える努力をしています。

膨らんでいる赤字を抑えるため病床利用率を83パーセントに

熊井　総務省からのガイドラインで病床利用率の数値を３年間で70パーセント以上をクリアしなさいと指導されています。

病院の累積赤字の件ですが83パーセントの病床利用率で単年度黒字化が出来る試算です。直近の目標として病床利用率83パーセントを掲げています。そうすれば赤字拡大を抑えることが出来る、それを当面の目標としています。

市長　今後は、市立病院を含めた連結決算を見た上で日野市の財政はどうかという判断になります。

市立病院の建て替えを決断した者として、市立病院をぜひとも維持し続けたいと思っています。市民の皆様にもご理解いただきたいところです。

まだまだ課題はたくさんありますがひとつずつ改善し、前進したいと思います。

牛尾　医師会としても市立病院の経営を安定させるため、また本来の機能を発揮させるため、市立病院との連携を強めたいと思っています。

熊井　私たちも、地域の医院・診療所とコミュニケーションを深め連携をし、病院の機能を発揮したいと思っています。

市長　本日はありがとうございました。

牛尾・熊井　ありがとうございました。

日野市食育推進計画（素案）

具体的な施策の展開

１.家庭における食育の展開
重点推進事業Ⅰ.食育は家庭から・朝ごはんは元気の源
①「（仮称）TVを見ないで朝ごはん・夕ごはん」の推進②保育園、幼稚園を通じた食育推進③保育園、幼稚園へ就園前の子どもたちへの食育推進④妊産婦に対する食育

２.学校、児童館、保育所等における食育の展開
重点推進事業Ⅱ.安全安心でおいしい学校給食の推進
①「（仮称）ひの野菜給食月間の制定」②学校給食日野産野菜の利用促進③学校、児童館、保育所等における食育の均質化と質の向上④食の重要性を体験から学ぶ

３.地域における食育の展開
重点推進事業Ⅲ.地域で進めるみんなの食育
①食から始まるおいしい健康づくり②青壮年期、若年期のメタボリックシンドロームを減らす③高齢者の食生活と健康づくりの支援④食育推進優良店舗の創出⑤地域の力を集める

４.その他の推進事業
①Let's食育　Let's情報発信②日野農業応援チーム「日野ぐりーんサポーターズ」との連携③食による国際交流の推進④安全・安心な食

３つの重点推進事業と５つの数値目標

１.家庭における食育の推進
重点推進事業Ⅰ.食育は家庭から・朝ごはんは元気の源
朝食を欠食することがある人の割合
数値目標１.
保育園児、幼稚園児の保護者
18.6%→5年後（半減）
数値目標２.
園児（1.7%）、児童（3.8%）、生徒（9.7%）→5年後（0.0%）

２.学校、保育所等における食育の推進
重点推進事業Ⅱ.安全安心でおいしい学校給食の推進
数値目標３.
学校給食での地元野菜利用率
日野市産限定
（平成17年度）（平成19年度）（平成21年度）（平成23年度）
11.3% →15.0% →20.0% →25.0%

３.地域における食育の推進
重点推進事業Ⅲ.地域で進めるみんなの食育
数値目標４.
食育推進を実施する店舗の数
21.4%→５年後（40.0%）
数値目標５.
内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）を知っている市民の割合
54.0%→５年後（100%）

日野市食育推進計画（素案）についてご意見を

世界規模で「食」をめぐる問題が発生しています。市民一人ひとりが心身共に健康で生きるため、こうした「食」をめぐる問題を解決しなければなりません。

そのためには家庭、保育所等、学校、地域を大きな柱とし、地域に根ざした日野市らしい取り組みを推進していくことが必要です。

■基本理念

市では、東京都にありながら緑や清流の残る環境や、１校１人の栄養士による自校方式の学校給食、消費者が身近にいる利点を生かした都市農業、地域に根ざした１万人に１人の保健師活動等、環境や特色に合った「日野市らしい食育」を推進します。

■数値目標と具体的施策

数値目標および具体的な施策の展開を定め、食育を推進します（左表参照）。

■計画期間

平成19～23年の５年間です。

■素案の内容を閲覧できます

市役所３階産業振興課、七生支所、豊田駅連絡所、市内各図書館および市内各小・中学校で見ることが出来ます。また、市ホームページにも掲載しています。

■ご意見をお聞かせください

この素案に対するご意見・ご提案を２月18日(月)～３月２日(日)に、次のいずれかの方法でお寄せください。

▽郵送＝〒191―８６８６日野市役所産業振興課「食育推進計画」
▽ＦＡＸ＝583・４４８３
▽Ｅメール＝sangyo_nousan@city.hino.lg.jp

■日野市食育推進計画のキャッチコピー募集！

「日野市食育推進計画」をより身近に感じられるようなキャッチコピーを募集します。
▽問合せ先＝産業振興課